

聖書:創世記17章1～14節

説教:あなたとあなたの子孫に与える

はじめに

先日、コロナウィルス感染拡大防止のために全国的に「緊急事態宣言」が出されたことを受けて、私たちもリスクを避ける必要があると考え、苦渋の決断ではありますが今日からしばらくの間、オンラインで礼拝を守ることにいたしました。戦争や迫害によって礼拝ができなくなるということは歴史上しばしばあったとしても、目に見えないウィルスにより世界規模で礼拝できなくなるということはかつてなかったことです。予想もしていなかったこと見たり聞いたりして、不安でいっぱいになります。しかしどんな状況に置かれても私たちは主の日の朝、主を礼拝するために心を合わせてまいります。

そもそもなぜ私たちは主を礼拝するのでしょうか。これには二つの質問が込められています。一つは、私たちが礼拝すべき方がなぜ主であるのか。なぜほかの神々ではないのか。二つ目は、このような中であってもなぜ私たちは礼拝をするのか。そのことを考えようとするとき、アブラハムという一人の信仰者にたどり着きます。

1 神とアブラハム

1) あなたの子孫はこのようになる(15章5節)

アブラハムの信仰の生涯は、神から「あなたの子孫、あなたの父の家を離れて、わたしの示す地へ行きなさい」と語りかけられたことが始まりです。主のみことばに聞き従って、やがてカナン之地に入ったとき、そこで神は初めて「わたしは、あなたの子孫にこの地を与える」と約束してくださいました。アブラハムはこれを聞いて非常に戸惑ったはずですが。と言うのは彼は、子どもが産まれないこととずっと苦しんで来たからです。

日本でも家を継ぐのは長男という習慣がずっとあって、もし長男が産まれなければお家取り潰しというくらい大変なことになる。アブラハムの時代もそうでした。このままいけば一族は離散、路頭に迷う可能性さえある。ある夜、布団に入って寝ようと思ったのですが、そのことが気になって眠られない。右を向いてああでもない、左を向いてこうでもないと考えるとますます目が冴えていく。

そんなアブラハムに神は、天幕の外に連れ出してこのように語りかけます。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。あなたの子

孫は、このようになる。」それを聞いたアブラハムは主を信じ、それで、彼は義と認められた、と創世記15章に書かれています。子どもが産まれる様子も何もないときに、こう言われただけで信じた。ちょっと頭がぼんやりしていたのではないか。そんなふうに疑いたくなります。もちろんそうではない。やはりアブラハムは黙っていられない。こう尋ねるのです。「神、主よ。私がそれを所有することが、なによって分かるのでしょうか。」つまり、証拠を見せて欲しいと要求した。そうしたら神は「わかったから、雌牛と雌やぎと、雄羊を持って来なさい」と言われ、それを真っ二つに切り裂く。夜になったら切り裂かれたもの間を、神である方が通り過ぎる。これがしるしだと言われた。

2) それでも信じ切れない

このようなしるしを見せてもらったのですから、彼はすっかり安心して信じたのか。そんな単純な話ではありません。アブラハムと妻のサラの二人は最初は待っていました。ところが待っても待っても何も変化がない。そのうちに月日ばかりが過ぎていきます。だんだん焦ってくる。とうとう慢でなくなつて、女奴隷ハガルを連れて来てハガルに子どもを産ませるように仕向けていく。それでイシュマエルが産まれたわけですが、結局そのことが原因で夫婦の間に大きな溝ができてしまいます。

2 神の契約

1) わたしとあなたとの間に

神の約束を待たなくて自分たちの知恵で解決しようとして失敗する二人。神はあきれかえって見放すのかと思うと、そうではない逆です。17章2節。「わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたを大いに増やす。」また新たに神は別の形で契約を再確認していく。このようにして信仰を失いかけているアブラハムを励ましていく。

そこで今日注目したいのは、神はいったい誰と契約を結んだのかです。7節を見ると二つのことが書いてある。一つ目。「わたしとあなたとの間に。」神はまずアブラハムとの間で契約を結びます。アブラハムが天を見上げてあの星の数ほどにあなたの子孫は増え広がるのだと言われて、それを信じた。その信仰のゆえに、アブラハムは契約書の

一番最初に名前が載る。これはもう当然ですねと
言うことになる。

2) あなたの後の子孫のとの間に

しかしそこで終わらない。続きがあります。7節
後半。「またあなたの後の子孫のとの間に」とあ
る。アブラハムだけではなかった。この契約書に
は、アブラハムの子孫も加えられている。

いったいなぜか。皆さん考えたことがあるで
しょうか。「それは、神さまのあわれみによつて
です」ということなのですが、今回改めてここを
読んで神の智恵の深さに驚きました。契約書の内
容が実にうまくできている。どうしたことか。4、5
節を読みます。「これが、あなたと結ぶわたしの契
約である。あなたは多くの国民の父となる。あな
たの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。あ
なたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを
多くの国民の父とするからである。」

ここに「アブラハムが多くの国民の父となる」
と書いてある。多くの国民の父ということは、当
然のことですが、アブラハムの子ども、孫、その
また子ども、とどんどん続くことになる。アブラ
ハムが父と呼ばれるためには、子孫たちが救われ
ていなければならない。もし救われていないの
なら、アブラハムは父になれない。ですから、「あ
なたの後の子孫のとの間に」とかいてあるのは理屈
が通っている。

3) 家で生まれたしもべも

それだけではない。12節を見ると、この契約書
には「家で生まれたしもべも、異国人から買い取
られた、あなたの子孫でない者もそうである」
と、どんどん範囲が広がっていく。普通は逆です。
できるだけ範囲を狭くして関係者がはっきりとわ
かるように絞っていく。それが一般の契約書です。

この契約書は、奴隷となって売られてきた人た
ちには朗報だったでしょ。もう自分の人生はこれで
終わりだと嘆いていたら、あなたも救いの契約に
入っていたと言われたようなものだからです。

いったい誰が救われるのか。自分は家族の中で
最初に救われたけれど、他の家族はまだ救われてい
ない。そういう方が沢山おられます。でも先週、ノア
の箱舟の所で見たとおりです。箱舟にはノアだけが
入ったのではない。ノアの奥さんと息子たち、そ
してその奥さんたちが入った。

それと同じように、いやもっと範囲を広げてア
ブラハムの子孫だけではなく、そこで雇われている
奴隷たちでさえもこの契約の中に入る。神の救

いの恵みは私たちが思っている以上に非常に広い
ことを示しています。

3 契約を破る者

1) 断ち切られる

それはうれしいことではありますが、でも14節
はどうでしょうか。「包皮の肉を切り捨てられて
いない無割礼の男、そのような者は、自分の民か
ら断ち切られなければならない。わたしの契約を
破ったからである。」

神との契約をはっきりと覚えていくために、男
子は割礼を受けなさい。痛いことではありますが
神の命令ですからそれはしようがない。でも、無
割礼の男は自分の民から断ち切られなければなら
ない。これはあまりにも厳しいと思いませんか。

いつも言いますが、厳しいと思えるところにこ
そ神の恵みがたくさんある。いつけん厳しいよう
に聞こえるのですが、逆に考えればよいのです。そ
れだけ神はこの契約の中に入れてたいと願ってい
る。救いたいと願っている。でもそこまで厳しく
言わなくても思うでしょうか。

もし救われなかったなら、いのちがないのです。
永遠の滅びしかない。一人の信仰者を通してまるで
芋づる式のように紐で結ぶようにして、ぞろぞろと
あなたの子孫とあなたに関係する人たちが救われ
ていく。一人でもそこから漏れることのないよう
に。それが神の願いです。

ではこの厳しい命令はどうなったのでしょうか。
単なる脅かしだったのか。いいえ。このように
語った神ご自身が、まるで無割礼の男のようになっ
て十字架につるされ、断ち切られていきました。

2) なぜ主を礼拝するのか

最初に二つの質問を投げかけました。私たちは
なぜ主を礼拝するのか。なぜほかの神々ではない
のか。理由は明かです。主が十字架で断ちぎられる
ようにしてご自分のいのちを投げ出してくださり、
私たちが死の滅びから救い出し、永遠のいのちを
与えてくださったから。このようなことをした神は
他にいないのです。だから私たちは主を礼拝しま
す。

3) なぜ困難の中にあっても礼拝するのか

そして二つ目の質問はこうでした。私たちは、な
ぜこのような状況でも礼拝するのでしょうか。主
が十字架という苦しみの中で父なる神にとりなして
くださったからではないですか。「父よ、彼らを

お赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」（ルカ23章34節）

このように主が苦しみを耐え忍びながら救いを与えてくださったのですから、私たちはこの苦しみの中にあってもこの方を礼拝したいと願います。